

# 平成25年度 【 学園研究費助成金＜ A ＞ 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ワタナベ コウ  
氏名 渡邊 康

研究期間 平成25年度

研究課題名 アクティブラーニングの実践を通じたマルチメディア教材の開発とそのデジタル配信の試み

## 研究組織

|       | 氏名     | 学部   | 職位  |
|-------|--------|------|-----|
| 研究代表者 | 渡邊 康   | 教育学部 | 准教授 |
| 研究分担者 | 磯部 錦司  | 教育学部 | 教授  |
| 研究分担者 | 宮田 俊雄  | 教育学部 | 教授  |
| 研究分担者 | 野崎 健太郎 | 教育学部 | 准教授 |

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

近年はインターネット上に知識と情報が膨大に集積され、「教育」の在り方について議論が活発になってきている。大学教育も質的転換の必要性が叫ばれ、教員が知識を「伝達」する講義形式から、学生が授業の運営に参加していく「アクティブ・ラーニング」への変化が望まれている。しかしながら、何が「アクティブ・ラーニング」なのか、「アクティブ・ラーニング」という形式は教育効果があるのか、という疑問に対しては十分に答えることができていない。これは「アクティブ・ラーニング」は、論文に代表される文字という表現形式で示すには限界があり、マルチメディアでの表現が求められる。その教育学的な実践が本研究の目的である。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

### 1. 教員養成課程における「アクティブ・ラーニング」形式の授業実践

音楽、造形美術、自然体験学習、生活科、理科の授業で、それぞれの授業目的にふさわしい「アクティブ・ラーニング」形式の授業を考案し実践を行う（渡邊・宮田・磯部・野崎）。

### 2. 「アクティブ・ラーニング」形式の授業のマルチメディア的集積

1. で実践した授業内容を、映像、音、文字、語り等の複数の形式で記録し、サーバーに保存する。新たに専用の Web Site を設置し、そこから集積した情報を発信する（渡邊・野崎）。

### 3. 「アクティブ・ラーニング」形式の授業の批判的検討

授業の大きな目的の1つである知識獲得の面から授業の評価を行う（野崎）。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

「アクティブ・ラーニング」形式の実践では、ケースメソッドでの「学校教材用ミュージカルの制作と上演」(渡邊)で「僕はあひる」を制作上演、「学外コンサート活動」(宮田)では附属小学校の生徒とのコラボレーションを含むやく栄の SMBC にて 1 時間のコンサートを実施した。渡邊の卒業研究では、保育初等学生論文課題としてミュージカルシアターや音楽物語の制作を行い、卒業論文発表会にて発表した。「椋山女学園大学教育学部・教員と卒業生による演奏会」2013 年 12 月では在校生も参加してのアンサンブル演奏も行ったが、これは主に 3 年生時における授業「器楽セミナー」の成果である。「卒業演奏会」(宮田など)は音楽コースに在籍する学生の音楽的実践である。これらはビデオ収録しており、編集の後サーバーに集積して、学内発信した。

また、磯部のケースメソッドでは 2 泊 3 日のアートキャンプを実施。現地の子どもの造形芸術活動を実施した。磯部の卒業研究では、絵画の制作を实践した。これらの模様を写真記録したものをスライドショーとしてまとめサーバーに蓄積して発信した。

野崎のケースメソッドは木曾川上流部(長野県木曾町)で夏期に 4 泊 5 日のキャンプを実施。生物採集、測量、水質分析し、まとめを行った。その成果をスライドショーにまとめ、サーバーに蓄積発信した。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

|             |             |         |   |
|-------------|-------------|---------|---|
| ①アクティブラーニング | ②マルチメディア的集積 | ③Web 発信 | ④ |
| ⑤           | ⑥           | ⑦       | ⑧ |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

- 1) 山崎真里・磯部錦司：自然観と生命表現の変容—事例分析 1 (栽培体験) —, 2) 磯部錦司・山崎真里：自然観と生命表現の変容—事例分析 2 (アート・キャンプ 2013) —, 「3) 渡邊康：音楽物語「笛を吹いた竜」(論文+楽譜), 4) 畝部真紀・野崎健太郎：知的障害者のインクルーシブ教育の 1 事例に対する保育者・教員養成課程の大学生の反応—対話を重視したケースメソッド型授業による実践—, 以上 1~4 は教育学部紀要 7 号に掲載 (印刷中)。
- 5) 野崎健太郎：大学教養科目の環境学におけるアクティブ・ラーニングの効果。椋山女学園大学研究論集 (自然科学篇), 45 巻に掲載 (印刷中)
- 6) 「椋山女学園大学教育学部・教員と卒業生による演奏会」2013 年 12 月名古屋電気文化会館ピアノ：宮田俊雄